

令和6年度 第1回東京都相談支援従事者研修検討会 議事録【要旨】

日 時 令和6年5月31日（金曜日） 14時から16時まで

出席者 吉川委員、稲垣委員、神作委員、芝委員、蛭川委員、高江洲委員、藤田委員、古橋委員
美濃口委員、横田委員

欠席者 安井委員

傍 聴 8名

事務局 東京都心身障害者福祉センター地域支援課長外川 他4名

1 開会

事務局	・資料確認 次第 資料1 令和6年度東京都相談支援従事者研修検討会委員名簿 資料2 東京都相談支援従事者研修検討会設置要綱 資料3 令和6年度障害者総合支援法等関連研修検討会の構造図（案） 資料4 令和6年度東京都相談支援従事者研修検討会 年間活動方針及び活動計画案について 資料5 令和6年度障害者総合支援法等関連研修 年間スケジュール（案） 参考資料1 令和5年度東京都相談支援従事者研修検討会 活動報告 参考資料2 令和5年度東京都サービス管理責任者等研修検討会 活動報告 参考資料3 私たちが目指す相談支援専門員の姿 Ver. 8 参考資料4 令和6年度 相談支援従事者指導者養成研修会 プログラム ・本日の検討会は、記録のため速記の方が参加をし、録音をすること、傍聴者がいることについてもご了解いただきたい。 ・資料の公開について、検討会設置要綱資料の2の7の規定により、議事録及び資料は公開することになっているが、本日の出席委員の議決により、非公開ということもできる。公開の場合、東京都心身障害者福祉センターのホームページで掲載するがよろしいか。
各委員	（了承）

2 東京都心身障害者福祉センター地域支援課長挨拶

地域支援課長	・事務局を代表して、お忙しい中、委員の委嘱についてご内諾いただき、感謝申し上げます。 ・令和6年度は、新たに明星大学教授、吉川かおりさんもご参加いただくこととなり心強く思う。 ・相談支援従事者研修は、地域の相談支援体制の要となる相談支援専門員を養成するために必要不可欠な研修。相談支援専門員を取り巻く状況は刻々と変化しているが、東京都における相談支援専門員としての役割を地域の中で発揮でき
--------	--

	るよう、引き続き質の高い人材育成に向けた研修づくりについてお力添えいただきたい。 ・事務局としても、委員の皆様の活発な議論を踏まえ、効果的で実効性のある研修にしていきたいと考えている。
--	---

3 委員紹介（自己紹介）

各委員	(省略)
-----	------

4 検討事項

(1) 委員長選出

神作委員	・明星大学吉川委員を委員長に推薦する。
各委員	(了承)
吉川委員長	・今年度より皆様と一緒に相談支援専門員研修に関わることができ嬉しく思う。 ・以前、サビ管の検討委員会にもかかわり、現場の方々が東京都の障害福祉を良くしようと頑張っている様子を肌で感じてきた。 ・相談支援専門員は、地域生活支援の要と言われながら、大変な思いをされている立場かと思う。地域で暮らす方々をコーディネートする相談支援専門員の質の向上は重要な課題と思っているので、皆様方と一緒によりよいものを目指していきたい。
事務局	・この先の進行は、吉川委員長にお願いする。
吉川委員長	・副委員長の指名については、本会議の後半にグループで話し合いをし、その総意で副委員長を選出していただきたいがよろしいか？
各委員	(了承)

(2) 年間活動方針及び活動計画案について

吉川委員長	・年間活動方針及び活動計画案について、昨年度の引継ぎ事項を踏まえて事務局から説明をお願いしたい。
事務局	(昨年度からの引継ぎ事項について) ・参考資料1の3ページ「来年度に向けて」参照。 ・1点目、実習対応者、区市町村及び拠点機関のバックアップについて。実習説明会の引き続きの実施と同時に、より伝わりやすくなるよう好事例の紹介やデモンストレーションの内容の見直しをする。また、一度も説明会に参加していない区市町村について、状況の確認や個別の働きかけをしていく。アンケートを実施する際は、拠点機関と自治体が回答を情報共有できるよう働きかけること、を挙げている。 ・2点目、研修補助教材の必要性について。まずは、受講者をサポートする立場にあるファシリテーターが、研修内容の理解を深められるよう、今年度は演習

	指導者養成研修の受講者やファシリテーターが活用できるような動画を配信して、効果を検証するということを挙げている。 ・3点目、私たちが目指す相談支援専門員の姿の更新について、行政職員等、相談支援専門員を知らない人にも分かりやすくその役割を伝える資料となるよう、引き続き内容を精査し、令和7年度の研修に使用できるようまとめていく。(年間活動方針及び活動計画の事務局案について) 資料4 参照 ・①区市町村および拠点機関での実習対応について、地域の実情に合わせたバックアップを行う。 ・②補助教材の必要性について、引き続き検討を行う。 ・③私たちが目指す相談支援専門員の姿について、相談支援専門員の役割を伝えることができるよう更新する。 ・④研修と検討会を連動して進められるよう、研修別、課題別に検討体制を構築する。 (検討の体制について) ・これらの活動方針案を踏まえ、今年度も課題別と研修別の二つの検討体制で進めていき、委員はそれぞれに属していただく形を案とした。 ・課題別の検討体制は、内容整理と人材育成のチーム、研修別の検討体制については、引き続き検討会OBや研修のファシリテーター等に協力をいただく予定。各チームにリーダーを置き、取りまとめをお願いする。 ・検討会までの間に各チームで検討し、結果を年4回の検討会で共有していく。 ・チーム編成については、事前に相談の上で記載しているが、一部研修チームの協力者について未定のため、後ほど相談の上決定したい。 ・各チームの取組内容について、内容整理チームでは昨年更新した新事例を現任研修で活用できるようブラッシュアップする。また、相談支援専門員の目指す姿V e r . 9の作成、補助教材の活用について検討する。人材育成チームでは実習説明会を通じた行政へのフォロー、地域の協力者の育成、実習説明会の内容の一部の変更を考えている。 ・研修別の検討体制については、研修ごとに担当を分けて研修の教材づくり、ファシリテーター説明会での説明、演習でのファシリテーターについて協力をお願いする予定。 ・年間の活動計画案は裏面にあるので、この後のチームごとの話合いの際に参照してほしい。
吉川委員長	・質問、意見はあるか。
各委員	・意見無し。 (了承)

(3) 令和6年度研修実施計画について

吉川委員長	・令和6年度研修実施計画について、この間の活動含め事務局から説明をお願いしたい。
-------	--

事務局	(資料5参照) ・相談については定員規模、実施時期にいておおむね昨年度と同様の予定。 ・現在までの研修の準備状況について報告する。 まず、初任者研修と現任研修のファシリテーターについては依頼と調整を3月末から行い、5月16日に調整結果をお知らせした。演習指導者養成研修の方も含め、現任研修は90名、初任者研修は107名の方々にご協力をいただく。 ・現任研修は、今年度申込者が非常に少なく、受講決定者数も440名と、ここ数年で一番少ない。現任研修チームは、既に研修の資料作成もおおむね済み、実習説明会も5月27日に実施した。昨年度からの引継ぎにあるように実習説明会に未参加の自治体へ、事務局より直接声かけをした結果、今年度参加自治体が増加した。また、今年度も含めて未参加の自治体も、おおくは配信を視聴し、理解されていることが把握できた。 ・演習指導者養成研修は、今年度は初任コースと現任コースの2コース制で実施する。受講決定も済み、研修1日目の準備を進めている。 演習指導者が各区市町村により偏在しているため、直接事務局より働きかけたが目覚ましい効果はなかった。 ・専門コース別研修②は、SVをテーマに実施予定。募集は8月初旬、10月1日実施予定。地域の拠点機関として主に初任者の実習対応をする方を対象と考えている。 ・専門コース別研修①は、昨年と同じ内容とスケジュールで実施予定。 ・初任者研修は5月29日に初回打合せを実施。今年度は講義動画の一部を変更する予定。 ・国の相談支援従事者指導者養成研修会については、参考資料4のとおり。東京都からの参加者は、検討会委員の方、研修検討チームに属する方で、今後も研修づくりに携わる方を事務局から推薦した。今年度、ケアマネジメント基礎コースは蛭川委員、地域づくりコースは<u>修理</u>さん、人材育成コースは美濃口委員に受講いただく予定。地域づくりコースに参加する<u>修理</u>さんは、現任研修チームのメンバーで、昨年度は現任研修チーム以外にも主任研修と専門コース別研修にも企画や講師として協力をいただいた方。 ・主任研修については協力者が未定だが、7月初旬に打合せ予定。
吉川委員長	・質問、意見はあるか。
各委員	・意見無し。 (了承)

(4) 初任者研修におけるサポーターの協力について

吉川委員長	・初任者研修におけるサポーターの協力について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局	・初任者研修は以前障害当事者であるサポーターの皆さんが、演習の際、1グル

	ープに1名入り行ってきたが、現在は新カリキュラムの導入と感染予防対策もあり動画で登壇いただいている。コロナ後のことについて、昨年度の初任者研修チームから、今後どうしていくかというお話をいただいた。事務局としては、今年度は前年どおり動画で実施し、次年度以降の方法については、動画での実施を継続するか、もしくは5日間の演習のうち1日に登壇いただく時間を設け、受講者と質疑応答する方法を提案したい。 ・動画で登壇いただく以外の場合は、プログラムの見直しをする必要があるので、初任者研修チームで検討をお願いしたいと考えている。 ・今後のサポーターの在り方について皆様にご意見をいただきたいが、その前にサポーターに関する経緯について、事務局の益子より報告したい。
事務局（益子）	・相談支援の研修そのものが長い歴史があるので、その中でサポーターの関わりについて、皆さんに共有したい。 ・まず、東京都では、何よりも本人主体、当事者主体ということを研修の中心に置いてきた。平成10年、平成11年に相談支援専門員研修の前身となる障害者ケアマネジメント従事者養成研修が東京都では始まった。当時の研修は障害別で行われており、その中の知的障害の部分で、知的障害当事者にグループでの演習に参加いただいた取り組みが、サポーターの始まり。 この頃の受講者は、区市町村のワーカーや保健所の職員がほとんどで、直接話を聞くことで当事者の暮らしを具体的にイメージできたり、当事者を主体とした支援の難しさに気づくことができるという評価を得てきた。 一方で、平成18年からは相談支援事業が制度化され、支給決定の根拠となる計画作成手法の習得が研修の獲得目標となった。 さらに令和2年度の研修制度見直しの際にはカリキュラムが質、量共に増え、それ以降の初任者研修プログラムは分刻みのスケジュールで行われている実態がある。 以前は、模造紙に本人の思いや願いを実現するフリースランを受講者とサポーターが一緒に話し合いながら作成し、最初は緊張していたサポーターも徐々に発言が増え、参加してよかったという感想が多く聞かれた。 ところが、現在のプログラムでは、アセスメントからプラン作成する時間にサポーターの話をじっくり聞く時間を捻出することが難しく、動画参加となる直前の研修では、演習について行けず会場で泣き出したり、研修後に不調を来したという報告を事業所から受けることもあった。サポーターとして参加された方につらい思いをさせたことを事務局として心苦しく思った。 ・このような前提で、現在の初任者研修のプログラムにおいて、どのような形でサポーターに協力いただくと、受講者とサポーター双方に良いのか、皆さんからご意見をいただきたい。
横田委員	・確かに研修で求められることが高度になり、ファシリテーターも追いつくことが必死という状況で、サポーターへの配慮が不足し、ご迷惑をおかけしたと思

	う。 ・研修内容が今後も変わらないとすると、今までどおり動画の出演プラス、研修 6 日目（実習の報告を行う日）に参加し当事者としての意見を伝えてもらい、受講者の気づきを促すのはどうか。その日程であれば、ファシリテーターも余裕があるので配慮ができると思う。
藤田委員	・当時のサポーターが参加された研修も一緒に行っていた記憶もあるので、サポーターが戻ってくると個人的にはうれしい。当事者が参加する研修は東京都の特徴でもある。 ・ただ、事務局が言うとおりの、分刻みの研修内容であることは、認識しているので、プログラムの改正がどの程度可能かが懸念事項。 ・ご本人が見た際に分かる計画をつくる、そのための研修。参加いただくサポーターが何をやっているか全然分からない研修では困るので、プログラムを修正しながらサポーターに部分的にでも参加してもらえると非常に実りある研修になるのではないかな。
稲垣委員	・グループファシリテーターをしていると様々な障害分野の支援者がいる。動画だと様々なサポーターの話が一遍に聞けるのは利点かと思う。 ・一方で、生の声を聞く機会はぜひ持ちたい。単発での参加でも機会があると良いと思う。
高江洲委員	・私も障害者ケアマネジメント研修から関わっており、最初はサポーターとして関わった記憶がある。その際は右も左も分からず、ファシリテーターに助けてもらい、「感じたことを伝えるということが大切」という考えで、話をしてきた。 ・カリキュラムが変わり、私自身もついていくのが難しい中で、サポーターがどこまで理解しながら自分の意見を言うのか、ということは難しいと思いつつ、生の声や、サポーターの生活の工夫、生きた情報は相談支援専門員になる人にとっては、新鮮に感じられるし、気づきを得やすいと思う。 ・動画の場合様々な方が参加できるのは大きいですが、生の声はとても刺激がある。ただ、ストレスがない参加方法は、検討会などで検討する必要がある。
蛭川委員	・私もサポーターだった際に、自分の役割が分からず、フラストレーションを感じたのは確か。その後、ファシリテーターの立場でかかわった際、サポーターに求めることがヒントとして書かれるようになり、ペアを組んだサポーターへの配慮や求めることを理解しながら進められた。 ・とはいえ、カリキュラムの中身がとても難しく、サポーターからは「これで良かったのか」と聞かれ、「分からないことを分からないとはっきり言うことが大事」と伝えることで、最終的には満足されるということがあった。ただ、1日しか参加できず、一緒に話し合った計画の最終版が見られず残念という話があったと記憶している。 ・何かに貢献したいと思う当事者にとっては、社会貢献の最前列にいる人たちのバックアップができることはモチベーションが上がるだろうと思うし、そうい

	う役割も復活してほしいと思う。一方で、カリキュラムの再編成が必要という事にはプレッシャーを感じる。
美濃口委員	・東京都の受講者が多い状況を考えると、ゼロか100かでなく、実際にやってみたいと思う方にどのように協力いただけるかを考えるほうが現実的ではないか。どの程度協力してみたい方々がいて、どうすれば負担なく参加いただけるか、検討していけると良いのではないかな。
芝委員	・私はサポーターの付添いとして、グループワークを見てきたが、内容の難しさと、ファシリテーターの経験等により、うまく参加できるサポーターもいれば、サポーター抜きで話が進んでしまうこともあった。ただ、その頃協力いただいた方々から、そろそろ復活しないのかというご意見もいただくので、ご本人にとっても良い経験だったのかと思う。 ・自身がファシリテーターをやるようになり、サポーターがいて、支援者寄りになりそうな時に気づかせてくれる場面は多かった。初任者にとって、暮らしという目線で話を聞くチャンスでもあるかと思う。 ・研修日程のどこに入れ込むか難しいが、どこかの場面でお話しいただく機会が持てると良いと思う。
古橋委員	・サポーターを入れたいと思う。内容をお伝えして参加していただける方を募れると良いのではないかな。それにより各地域で「やってみよう」という方がでてくるのではないかな。 ・具体的には、3日目のインテーク、アセスメントの部分にご参加してもらえると良いと思う。最近、過去にサポーターとして参加した方の感想を聞く機会があり、言葉遣いや、やり取りを聞き、傷つくことがあったがその場で言えなかったとの話だった。3日目は包括的理解の時間になる。本人中心ということを考える時、サポーターがいて、目線や考え方、言葉遣い、振る舞いに受講者も考えが及ぶと思う。
神作委員	・自分のこれまでの経験を思い出すと、かつてファシリテーター、受講者ともに、自分がつくることや学ぶことに精いっぱい、なかなか気が回らず、サポーターが置いてけぼりになってしまったことはあった。ファシリテーターがどんなに気をつけても、受講者の学びを大切にしようとするとなかなか難しいこともあった。 ・ご本人がいて、「本人の前でその言葉が言えるのか」という抑止力にもなったし、内容のすべてを理解できなくても、気の利いた一言、本音を聞けることで、立ち返るところを確認できた。そういったところにサポーターがいる意味があったと感じている。 ・ただ、現在の受講者数が多い状況で、各グループに配置となると相当数の方に来てもらう必要があり、全グループへの配置は難しいかもしれない。どこかの場面で、ご本人がお話しする機会を持つことは、東京都の研修として良いスタンスだと思うので、引き続き検討していただきたい。

	・ただ、グループによりサポーターの本音を引き出せるとは限らない。教室担当をする際に、動画を使用することで、サポーターの声をきちんと拾うことを受講者に伝えやすくなったので、その良さがあると思っている。 ・どちらかに決めることは難しいと思うが、ご本人が登壇する意味は大きいので良い方法を探っていけると良いと思う。
横田委員	・確認だが、以前、サポーターへの説明会はどの程度のことをやっていたか。
事務局（益子）	・初参加の方へは事務局から説明を行った。知的障害の方の場合は、複数人が参加される場合、その取りまとめ役の方へ説明をしたりした。また、当日の朝にサポーターのみの時間を設けて、当日やることの説明をしたり、毎回ではなかったが、ペアになるファシリテーターと一緒にお昼を取る時間を設けていた。
横田委員	・今後、参加してもらう場合、そこを丁寧に説明する機会を設ける必要がある。 ・サポーターは様々な方がいると思うが、どのような方に協力いただくか、少し精査する必要があるかどうか。以前は、幅広い立場のサポーターの方に協力いただいたが、今の研修カリキュラムにおいて、高江洲さんや蛭川さんのような方ばかりではない中で、どの程度の協力を得るかについて、精査していくか。それとも制限を設けず幅広く協力をしてもらえよう考えていくか、議論があるのではないか。 ・また、動画出演に関しては今後も継続で良いのではないかと思います。
美濃口委員	・私自身も本来、サポーターが各グループ参加いただければ、それにこしたことはないと思っているが、現状で考えると既にミスマッチが起きていたり、参加することが先行すると、何のために参加してもらうかという役割が置き去りになってしまう。これだけ大規模な研修に参加するとなると、サポーターが、「参加してよかった」という満足感を持てるような研修体系になっているか疑問が残る。 ・ファシリテーターを長くやっている方からも、研修のレベルが高く、ついていくのが精いっぱいという話を聞いた。それを考えると、どこまで当事者の方が安心して参加できるようなレベルまで落とし込めるかについては、足元を見て考える必要がある。 ・私個人としては、東京都が当事者の声を聞き、学ぶという姿勢を大事にできるのであれば、そこを大事にしながら、徐々にサポーターとつながっていき、それを活用できるようプログラム変更するのが良いのではないか。
蛭川委員	・横田委員から話があったどのような方に協力してもらおうかということについては、関心がある人、相談員に良い印象を持っている方かと思う。面白そう、お金がもらえる等、理由は様々で良いと思う。 ・サポーターは研修を理解することが目的なのではなく、当事者の視点で「わからない」と言ってもらえとか、当事者を前にその発言ができるのかという視点で、受講者の発言や表情を見てもらいたい。それを要所所でファシリテーターからコメントをしてもらうような形で良いと思う。

	・ピアサポーター制度もでき、活動したい方が今東京都に多くいるので、その方たちに声をかければ、協力してくれる方は集まるのではないかな。ピアサポーターになる際、対等性を大事にしているので、支援者寄りにならずに発言できるというところがポイントと思う。
古橋委員	・難しい内容が負担になるのではないかなという話があるが、お願いしたい部分をパッケージした説明の上で、登場してもらえると良いと思う。例えば、目の前で行われていることを見たり聞いたりして、「うれしい」とか「それは違うと思った」など自分の感情がどのように影響を受けたか、自分の気持ちを正直に伝えよう。研修全体の理解は到達目標ではなく、その場に居て同じ時間を味わうことが大切ではないかな。様々な表現をする方がいると思うが、それで良いと思うし、どんな方が良いかについても、関心がある方であれば誰でも良いと思う。その方なりの感情、思いの表現をしてもらい、それを受けて受講者がどのように考え直すかということをやれると良い。事前の整理と説明が大事になると思う。
吉川委員長	・皆様の話を伺い、幾つかの観点から整理ができると思う。 ・声を聞くことの重要さは皆さん共通の認識と理解した。声を聞く際、計画づくりに関わることと、暮らしのリアルを伝えること、その場において言葉遣いや分かりにくさを含め自分の感情の動きを伝えること、この3点が混在している。 ・これら3点の意味を考えると、暮らしのリアルについては動画で代替可能になり、その場にいることというのは、それを確保しなければいけない。計画づくりに関しては、先ほどインテークやアセスメントの場面にという話があったが、そこだけ関わるとそのあとどうなったのか分からないまま終わってしまうという不全感があると思う。その辺をうまく解決し、あとは時間割に入るかどうかということかと思う。 ・この議論は、今日1日かけても終わらないことが明らか。今年度の研修に反映させるのは難しいので、今年度は動画を継続し、来年度、本日の議論をどのように落とし込んでいくか、改めて時間を取るということで良いかな。
藤田委員	・初任者研修チームでプログラムを修正していると思うが、カリキュラム自体のレベルを下げず、理解してもらうための時間をいかにつくるか。現任研修チームの修正作業でも新たな時間を作ることは難しかったので、少し時間が必要だろうと感じた。
事務局（蟹澤）	・この件について、ある程度初任者研修チームで詰めていくことで良いのか確認したい。チームとしては、教材づくりなど、過密なスケジュールで、相当なボリュームのことを少人数でやらなければならないことを踏まえ、初任者研修チームのリーダーである蛭川委員が、どのように考えるか共有しておけると良いがいかがかな。
蛭川委員	・再度サポーターを迎える際にプログラムを変えなければならないという話があり、今年の演習ノートづくりはそこも想像しながら行いたい。

	・先ほどもお伝えしたとおり、サポーターは研修を理解する必要はない前提で、ここにサポーターのこんなコメントがあったら良いのではないかというものを各日程の担当者が想像してもらえると良いかと考えている。
横田委員	・皆さんの話を聞き、カリキュラムを変えるのではなく、サポーターに関わってもらう意味や役割を定義し、その上で演習の中で、言葉の使い方や、快、不快の発言をしてもらうだけでも良いと思う。サポーターにどのようにかかわってほしいか明示し、それに賛同してくださる方が参加してくれるのであれば、負担なくやれると思った。
高江洲委員	・サポーター動画はそのまま残し、別途グループにも入ってもらうのか。
横田委員	・吉川委員長が言うように、動画では暮らしの有り様を語ってもらう。演習では、タイムリーに、相談支援専門員になろうとしている人たちの振る舞いや考え方に当事者としての意見を述べてもらうと一番効果的と思う。
蛭川委員	・私も動画とサポーター参加の両方があって良いと思う。以前も休憩時間に動画を上映したことがあったと思うが……。
事務局（益子）	・動画になったのはコロナになってから。動画をたくさん撮影したので、休憩時間に上映したこともあった。
蛭川委員	・そのように上映すると、それを見た受講生が隣にいるサポーターに質問したり、話題提供できるかもしれないので、両方あって良いと思う。これまで使用したものを再度使用するのでも良いので。
芝委員	・研修内容の見直しはしないという話だったが、知的障害の方を想像すると、内容をかみ砕いて伝えたり、意見を聞く際に少し待つなどが必要で今のスピード感では厳しいと思う。内容を削るのが難しくても、全く変えないわけにはいかず、時間の配分や流れの見直しが必要と思う。 ・動画については既存のものがとても良い内容。最後の相談支援専門員へのメッセージは毎年見たい程良かった。
吉川委員長	・課題が山積ということが明らかになった。特に初任者研修チームの方には負担をかけることになるが、今年度のつくり込みしながら、来年度を見据えていただきたいと思う。
稲垣委員	・演習指導者養成研修の担当として、初めてファシリテーターになる方にサポーターの意味などを丁寧に伝えたいと考えたとき、いつこれらの事が決まるのか気になった。
事務局（蟹澤）	・来年度を見据えて今から話し合うのは厳しいかと思う。 ・例えばファシリテーターの募集は3月に開始して調整等を行っている状況なので、同様と考えると2月にはどんなに遅くても内容を決めなくてはならない。また、予算の関係もあるので、スケジュール感を含めて考えるところから始めるということでしょうか。
横田委員	・ロードマップづくりからということか。
事務局（蟹澤）	・そのとおり。カリキュラムを調整することが不可欠だと事務局は考えているの

	で、そうなるとうとうしても初任者研修チームを中心に検討していきたいと思う がいかがか。
横田委員	・演習ノートの作成などするより、そこが検討委員の本来の役割かと思う。
吉川委員長	・2年計画ぐらいか。
事務局（蟹澤）	・ロードマップ次第だが、もう少し長期間で計画したい。
蛭川委員	・サポーターもやり方が分からなくなってしまうので、遅くならない時期にしたい。
吉川委員長	・事務局から必要事項のリストを出していただき、それをもとにメールなど活用しながら共有できたらと思うが、事務局はいかがか。
神作委員	・ファシリテーターであっても受講者であっても、ご本人の気持ちを汲んだり、そこに人がいるのは当たり前のことで、特別な技術を持たなくても良いのではないか。ただ、準備として人数を集めることや、事前の丁寧な説明、内容の準備が必要だと思うが、私たち側の準備はそれほど高度なものを求めなくて良いのではないか。
吉川委員長	・予算は大丈夫なのか。
事務局（益子）	・来年、再来年については未定。少なくとも今までより拡大することは相当難しい。今、案としてある、1グループに一人と動画もとなると厳しいと思う。そこも含め、決めなくてはいけないことをリスト化することを事務局で行い、それを枠組みとして参考にロードマップづくり、内容の検討をしていただきたいが、いかがか。
蛭川委員	・予算の事はあるとしても、2年後には実施したいと思う。グループ数やサポーターの人数は、コロナの前と変わらないのか。
事務局（益子）	・受講者の募集人数は前年度に決め、グループ数は受講者の数によるので確定した人数は今は未定。1日1グループに一人で丸一日でなく半日というのが最終形だったかと思うので、それをイメージしてほしい。
蛭川委員	・1日か2日というイメージだった。動画を使い回しすると費用がかかるのか。
事務局（蟹澤）	・毎回ご本人に許可をいただいているが、費用がかかるのは撮影時のみ。
蛭川委員	・費用の事を含め、工夫しながらよい研修にできると良いと思う。
吉川委員長	・この議題は終了し、次に移りたい。

（５）検討体制（チーム）に分かれてリーダーの選出等

（人材育成チーム・内容整理チームに分かれて討論）

（６）副委員長選出

吉川委員長	・各検討体制チームから、リーダー選出と話し合い結果の報告をお願いしたい。 ・まず、内容整理チームのリーダーからご報告をお願いしたい。
-------	---

美濃口委員	・リーダーとなった。力不足かと思うが、精いっぱい努めたい。 ・決まったことは3点、補助教材と事例のブラッシュアップ、目指すべき姿のV e r . 9に向けてということの三つになる。補助教材については、事務局含めイメージの共有ができた。事例と目指すべき姿に関しては、後日打合せを予定。
吉川委員長	・続いて、人材育成チームから報告をお願いしたい。
藤田委員	・人材育成のチームのリーダーについては、安井委員も不在だったため、後日決定予定。そのため、前任の私から報告をする。 ・人材育成チームは、実習説明会を中心に考えていく。実習説明会という機会をとおして、行政担当者、S V担当の相談支援専門員の皆様に対してサポートできるよう進めていきたい。 ・昨年度から要望がある、実習説明会でのデモンストレーションについて、理解が乏しい受講生に対するフォローの仕方がわかるようなデモについて、これから検討をしていく。 ・実習説明会の実施方法について、行政担当者、担当の相談支援専門員で話し合いができるような形や、複数の自治体を組み合わせ、それぞれ参考にしあえるような仕組みをつくなどの案があり、引き続き検討していく。 下半期はすぐに、次年度の現任研修の準備が始まるため、準備をする予定。
吉川委員長	・では、議題（6）副委員長の選出を行う。人材育成チームについては後日決定のため、内容整理チームより美濃口委員を副委員長としてお願いすることで良いか。
各委員	(異議なし)

(7) その他

吉川委員長	・その他について、何かあるか。
各委員	(意見無し)

5 閉会

吉川委員長	・ありがとうございました。事務局へお返しする。
事務局	・吉川委員長、皆様、ありがとうございました。 ・事務連絡をする。この後第2回検討委員会までの間に、本日の議事録要旨案を事務局で作成し、皆様に確認をお願いしたい。 ・次回検討会は8月9日、会場は本日同様となる。 ・以上で、閉会とする。お忙しい中のご参集、誠にありがとうございました。